創世記１４・１５章

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　文責五

１４章

[あらすじ]

メソポタミア連合軍（シヌアルの王アムラフェル、エラサルの王アルヨク、エラムの王ケドルラオメル、ゴイムの王ティデアル）にカナンの王たち（ソドムの王ベラ、ゴモラの王ビルシャ、アデマの王シヌアブ、ツェボイムの王シェムエベル、ベラの王、すなわち、ツォアルの王）が反逆→カナンの王たちはフル○ッコにされ、全財産を失う＆ソドムに住んでいたロトが捕虜にされる→アブラムは手勢３１８人を引き連れメソポタミア軍と戦闘→アブラムの勝利＆没収された財産を取り返し、ロト含む捕虜を開放→メルキゼデクがアブラムを祝福

問い１：アブラムが勝利することができたのはなぜか？（メソポタミア連合軍は現在のシリア、イラク、イラン南西部あたりの国々が集まった大軍だった。カナンの王たちの国々は全部足しても東京２３区くらい）

問い２：アブラムはなぜ、自分の分の報酬を受け取らなかったのだろう？

問い３：１２章から読み返してみて、アブラムの人間性はどのように変化してる？

[知識]

メルキゼデク:「シャレム（サレム）の王」「いと高き神の祭司」。『[詩篇](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A9%A9%E7%AF%87)』（76:3）の記述などを根拠に、「サレム」は伝統的に[エルサレム](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A8%E3%83%AB%E3%82%B5%E3%83%AC%E3%83%A0)と同一視されている。

１９節～２０節はアブラハムの子孫にはカナンの相続権が確約されているとする伝統的な教義の下地になっている。

15章10節:当時の遊牧民の伝統的な契約の儀式。動物を二つに裂いて、契約する二人が二人が一緒にその裂かれた体の間を歩く。それは、もし契約を守らなかったら、自分も体を引き裂かれても文句は言わない、という意味。17節で神が裂かれたものの間を通り過ぎている。鳩を引き裂かないのは、イスラエル人が鳩を食べないため。

１５章

問い４:１２節の「暗黒の恐怖」とは何を意味するか？

問い５::神とアブラムとの契約は成功したのか？